

# ICT を活用したオンラインでの社会科授業実践報告

赤井繁之

日時	2020 年 12 月 21 日(月)5校時	2021 年 1 月 22 日(金)5 校時
授業者 場所	赤井繁之(@和歌山県の自宅) ニシャ・パタク(@ムンバイ日本人学校)	赤井繁之(@ムンバイ日本人学校) ニシャ・パタク(@ムンバイの自宅)
生徒の 接続	生徒1名(@兵庫県の自宅)	生徒1名(@兵庫県の自宅)
単元	日本とインド(ムンバイ)の文化交流【全2回】	
目標	日本やインドの文化の一端を交流し合うことで、生徒がインドの文化についてより理解を深め、今後一層自国(日本)やインドについて学ぼうとする姿勢を育むこと。	
授業 展開	<p>①生徒とニシャ・パタク自己紹介</p> <p>②トレンド、文化交流(その1) ニシャ・パタクによるインドアニメ紹介 【YouTube のアニメをリアルタイムで共有】 それに関する質疑応答</p> <p>③トレンド、文化交流(その2) 生徒によるマイクラフト紹介 それに関する質疑応答 【生徒 ipad 上のマイクラフトをリアルタイムで共有】</p> <p>④トレンド、文化交流(その3) 生徒からニシャに「普段インドやムンバイに関して疑問に思っていること」を質問し、ニシャがそれに回答する。 【ニシャ作成の<u>パワーポイントスライド</u>をリアルタイムで共有】</p>	<p>①トレンド、文化交流(その4) インドのごみ事情と分別について ニシャ・パタクより説明(講義) それに関する質疑応答 【ニシャ作成の<u>ワード文書</u>をリアルタイムで共有】</p> <p>②トレンド、文化交流(その5) 生徒による日本アニメ紹介 それに関する質疑応答 【YouTube のアニメをリアルタイムで共有】</p> <p>③トレンド、文化交流(その6) 生徒からニシャに「普段インドやムンバイに関して疑問に思っていること」を質問し、ニシャがそれに回答する。 (第1回授業で残っていたインドやムンバイに関する質問事項を扱った。)</p>

※ニシャ・パタク:ムンバイ日本人学校専属通訳。今回特別講師として指導協力。

## 強化されたネットワーク回線の効果について

この授業以前(12月半ば頃まで)は、インド(@日本人学校)との ZOOM を行っても、通信不安定になることや、通話が途切れがちになることが多く、リアルタイムにおける通信にストレスを感じていた。そのため、ムンバイ日本人学校と日本との接続による授業をためらっていたが、通信環境が大きく改善されたことを契機にインド

(@ムンバイ日本人学校)との授業を計画したいと思うようになった。授業の本質として、授業展開のリズム感は生徒の学習効果という点で非常に重要である。そのためリモートにおいては、通信環境が少しでも悪いとそもそも授業にならない。特に小学校や低学年になるほど集中力の持続が困難になるため、通信状態が悪いと彼らの集中力(辛抱)が続かず、やる気を大きく低下させることになる。今回2回の授業を企画、実施してみて本当に良かったと感じている。ZOOM 機能であるリアルタイム共有における日本—ムンバイ日本人学校間のタイムラグは全く感じなかった。通信改善のおかげで、今回講師を務めたニシャのパワーポイントスライドの展開もスムーズであったし、YouTube 動画の滞り(いわゆるカクカク等)も全くなかった。生徒が ipad 上から行ったマイクラフトの紹介も鮮明かつスムーズであった。ニシャからのアニメ紹介やパワーポイントスライドを使った説明の展開等、通信環境の強化により非常にスムーズであったため、生徒も興味を持ちながら集中して聞くことができた。またその後の質疑応答のやりとりもリアル世界と同様ストレスなく実施できた。授業の命となるリズム感の良さが通信環境の強化により担保されたので、生徒のモチベーションも対面授業と同様に保たれたと感じた。ニシャの説明を聞き、それを受け、生徒がその場で質問をいくつか作って積極的に参加できていた。文化に関して積極的に関わろうとする生徒の姿勢が見られたため、この授業の効果はあったと感じている。生徒が相手に対して動画共有等を使って働きかける(活動をする)場合、リモートでは通信環境がどれだけ整っているかがキーになる。これがリアルタイムでできるのとできないのでは学習効果が全く変わってくる。今回の活動においては、生徒自身が生徒のペースやリズムで展開できたことも大きく、それが大きな学習効果につながった。

#### 授業場面画像

